

たむかい 田向遺跡

遺跡番号 平成11年度登録
調査回数 第1次
所在地 村山市名取字田向
北緯・東経 38度30分17秒・140度22分12秒
調査委託者 国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
起因事業 東北中央自動車道（東根～尾花沢間）
調査面積 4,000 m²
現地調査 平成22年5月17日～8月24日
調査担当者 高橋 敏（現場責任者）・佐藤智幸
調査協力 東日本高速道路株式会社東北支社山形工事事務所・村山市教育委員会・村山教育事務所
遺跡種別 集落跡
時代 縄文時代・平安時代
遺構 溝跡、土坑、柱穴
遺物 陶磁器・土師器・須恵器（文化財認定箱数：1箱）



図1 遺跡位置図（1：50,000）



図2 遺跡全景（ラジヘリ撮影）

田向遺跡は、最上川右岸の河島山丘陵南麓に広がる低地部で、山形盆地と尾花沢盆地の境に立地する。県教委の分布調査の結果、調査予定範囲の中央部は過去の開田による削平を受けたことにより調査から除外され、南側（A区）3,600 m²と北側（B区）400 m²とに分け調査を実施した。A区は開田による削平が激しく、北西部分で遺構を少数ながら検出することができた。見つかった遺構は、溝跡、土坑、柱穴など約300基程度である。いずれの遺構からも遺物は出土しなかったため、時代を推定することができなかった。柱穴の中には柱痕跡（アタ

リ）が確認できるものが複数認められた。しかし、建物と確認することはできなかった。B区からは溝跡、柱穴、長方形の土坑が検出された。中でも、長方形の土坑は一気に埋められたと考えられ、墓坑の可能性も考えられたことから、採取した土壌サンプルを詳しく分析し、遺構の性格を検討する予定である。

遺物は表土掘削中に出土した少量の近現代の陶磁器がほとんどで、他に土師器や須恵器が僅かに出土しただけであった。本調査区は遺跡の縁辺で、中心部は調査区西側に広がる畑地部分と推定される。